

令和3年【第2回】 「いわて復興ウォッチャー調査」結果報告

1 目的

東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、被災地域において復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を実施する。

2 調査の概要

(1) 調査対象

岩手県の沿岸12市町村に居住又は就労している方 153名

※原則として、毎回同じ方を対象に調査を実施

(2) 調査方法

郵送法(郵送による発送、返信用封筒による返送)

(3) 調査対象時期

令和3年7月(次回調査は令和4年1月予定)

(4) 調査項目

問1 被災者の生活の回復に対する実感(被災者の生活の回復度及び直近6ヶ月間の進捗状況)

問2 地域経済の回復に対する実感(地域経済の回復度及び直近6ヶ月間の進捗状況)

問3 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

(災害に強い安全なまちづくりの達成度及び直近6ヶ月間の進捗状況)

(5) 回収結果

有効回収率 82.4%(126名/153名) <前回 79.7%(令和3年1月調査)>

(6) 回答者の属性

①性別

性別	人数	割合
男性	88	69.8%
女性	38	30.2%
不明	0	0.0%

②地域別

地域	人数	割合
沿岸北部	40	31.7%
沿岸南部	86	68.3%
不明	0	0.0%

③年齢別

年齢別	人数	割合
39歳以下	7	5.6%
40歳代	27	21.4%
50歳代	54	42.9%
60歳以上	38	30.2%
不明	0	0.0%

④住宅被害の有無

被災有無別	人数	割合
被災あり	70	55.6%
被災なし	53	42.1%
不明	3	2.4%

⑤ 職業・所属等

- ・ 地域団体・郵便局関連(応急仮設住宅の自治会(入居当時)、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など) 46名(36.5%)
- ・ 教育・福祉施設関連(小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など) 37名(29.4%)
- ・ 産業・経済・雇用関連(漁業・農業従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者など) 43名(34.1%)

■参考■

- 「回復度」「達成度」とは、発災以降における全体の回復状況についてお尋ねしています。
- 「進捗状況」とは、直近6ヶ月の進み具合についてお尋ねしています。
- 沿岸北部とは、洋野町・久慈市・野田村・普代村・田野畑村・岩泉町の6市町村、沿岸南部とは、宮古市・山田町・大槌町・釜石市・大船渡市・陸前高田市の6市町です。

※ 調査結果の集計・分析にあたっては、岩手県立大学総合政策学部の協力を得て行っています。

※ 掲載する割合(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

3 調査結果の概要(1) 被災者の生活の回復に対する実感

○被災者の生活の回復度については、「回復した」が51.6%と、前回(43.8%)を7.8ポイント上回った。また、「回復した」「やや回復した」の合計も85.7%と、前回(84.3%)を1.4ポイント上回った。

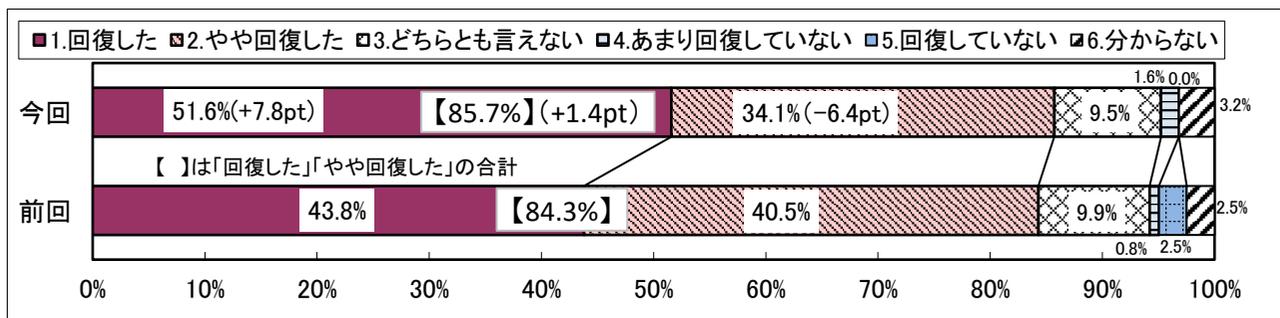
○地域別では、「回復した」が沿岸北部で52.5%と前回(50.0%)を上回り、沿岸南部では51.2%と前回(40.5%)を大きく上回った。「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で87.5%、沿岸南部で84.9%と、前回(北部83.3% 南部84.8%)をそれぞれ上回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は2.6%と、前回(1.5%)から微増した。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んでいる」が30.2%と、前回(32.5%)を下回り、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計も63.5%と前回(65.0%)を下回った。

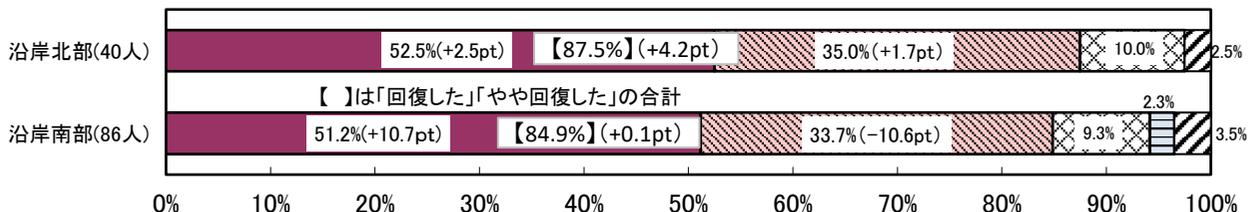
復興道路の延伸や恒久的な住宅への移行など生活基盤の整備が進んでいることを評価する一方で、新たなコミュニティの形成や被災跡地の活用に課題があるとの声や、復興工事の終了による雇用の不安、新型コロナウイルス感染症や不漁の影響による水産業の収入減を指摘する声があった。

① 被災者の生活の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、被災者の生活は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

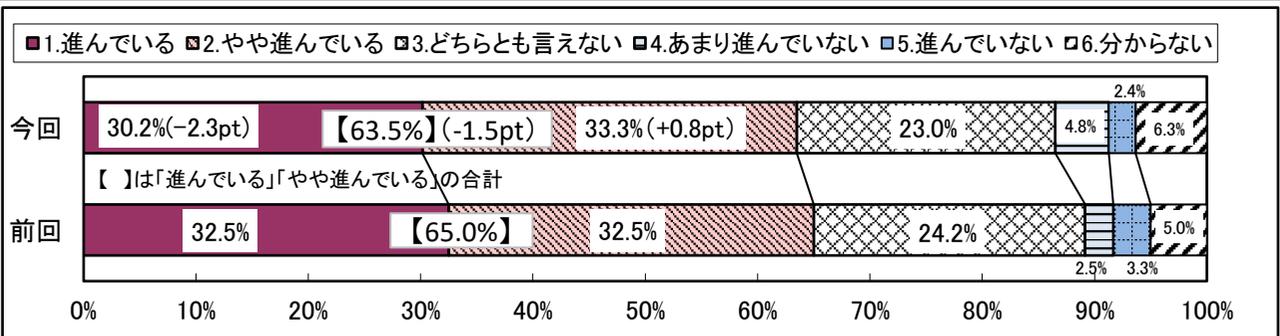


地域別

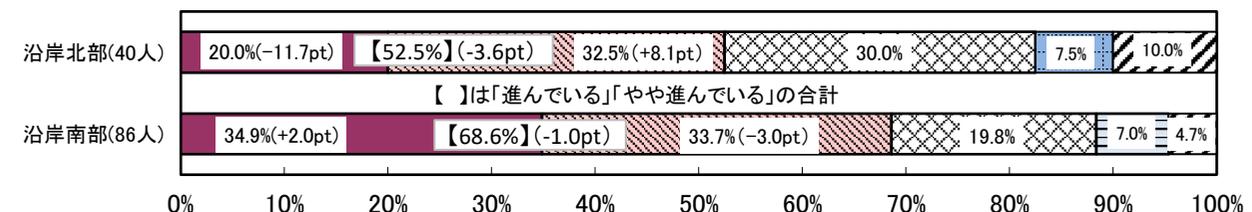


② 直近6ヶ月間(おおむね1月から7月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)被災者の生活の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.回復した」 又は 「1.進んでいる」 の理由</p>	<p>◆三陸復興道路が全線開通まであと一步という状況になったから。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p> <p>◆被災によるものは一掃されており,生活の回復は図られている。又は,移住や転居等,生活の変化で対応しており,問題は見られない。(40歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p> <p>◆防集による集団移転は完了しているし,仮設住宅は撤去されている。震災復興事業はあらかじめ終わり,外部から来ていた労働者がかなり少なくなった。コロナ禍による影響が雇用面にも出ている。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆公園の整備がようやく完了し,子供達の声が聞こえるようになった。震災から10年,被災者も復興工事に携わった多くの方々に頭が下がる。ただし,震災10年目にコロナ禍が重なってしまい,行事が自粛となっているのが懸念される。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆10年過ぎ,復興事業は,防潮堤以外はほぼ終了した。回復したという表現が合っているかどうかは別として,これ以上の回復?は望むべくもない。三陸道,釜石一花巻,宮古一盛岡の道路が良くなった。震災前には,(望んでも)考えられなかった,アクセスの良さを得たと思う。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆3月に10年という節目を迎えて,被災したり,身内が亡くなったりした方の気持ちに少し区切りのようなものを感じた。2,3年前よりも震災や亡くなったご家族のことなどをご自身からお話するようになった。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆自宅の再建や災害住宅への入居により,住まいは落ち着いた。地域での高齢者のサロン活動等も,活発に行われるようになった。(40歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p>
<p>「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<p>◆住宅再建もほぼ完了し,生活環境はやや回復したと思われませんが,震災前と比べて地域内の個々のつながりがなく,今後は地域内のコミュニティーの構築が必要と思われる。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆復興住宅は全てが完成し,また,住宅を再建する人など被災者の住環境は回復したように感じる。但し,高齢化が進む復興住宅におけるコミュニティーの形成や家賃の問題などの課題があげられる。復興工事の大部分が終了し,今後,建設業の雇用面での不安がある。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆防潮堤等の整備・高田松原海岸の海びらきなど,生活は少しずつ回復できていると思う。10年という長い年月の中で多くの人の努力が回復へと向かわせたのだとも…。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆仮設住宅がなくなり回復したように思う。ただ,進捗状況は新築の戸建ての現場が少なくなり鈍化していると感じる。または,これで再建は終わりなのかと虫喰い状態の土地の町を見て,今後は不安になる。(39歳以下,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆仕事について,生活について,気持ちの面においても,前に進もうとしていると感じとれるから。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p> <p>◆漁業については,震災前より収入が減少している。アワビ・ウニ・サケ・イカ等すべてが不漁になり,また,コロナの影響で価格が下がり,大幅な収入減となっている。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<p>◆空き地がなかなか埋まらない状況があり,浸水地域の復興が遅れている。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆東日本大震災からの回復と考えると回復したと考えられるが,新型コロナウイルスの感染対策として「人と会わない」、「出かけない」状態が1年以上続き,コミュニティ面で大きな影響を受けていると感じる。(39歳以下,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p>

注1) 「理由(要旨)」は,趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は,区分の回答比率におおむね準じています。

注3) 掲載内容は,同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会,地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など
 教育・福祉施設関連 : 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など
 産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者,就業支援員等雇用支援機関の関係者,金融機関の関係者など

3 調査結果の概要(2) 地域経済の回復に対する実感

○地域経済の回復度については、「回復した」が17.6%と、前回(15.7%)を1.9ポイント上回った。ただし、「回復した」「やや回復した」の合計は49.6%と、前回(56.2%)を6.6ポイント下回った。

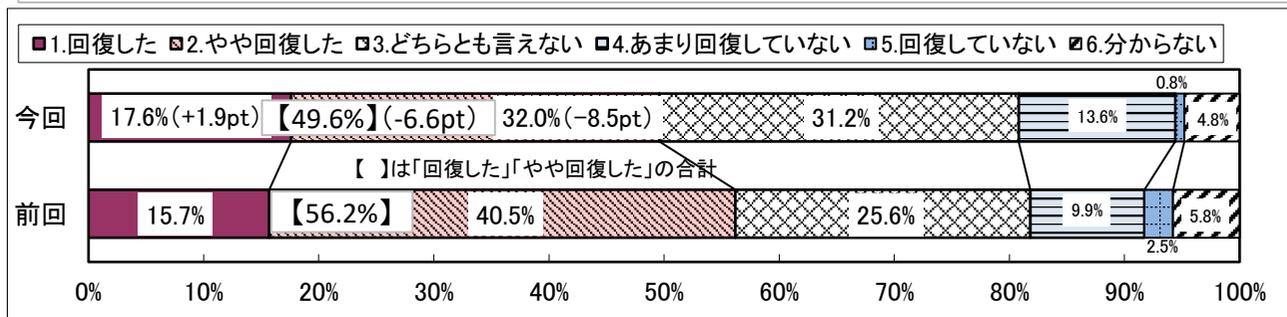
○地域別では、「回復した」が、沿岸北部で17.5%、沿岸南部は17.6%と、それぞれ前回(北部16.7% 南部15.2%)を上回った。「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で60.0%と、前回(59.6%)を上回った一方、沿岸南部では44.7%と、前回(54.4%)を大きく下回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は15.3%と、前回(5.2%)から大きく拡大した。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んだ」が12.1%と、前回(13.2%)を1.1ポイント下回り、「進んだ」「やや進んだ」の合計は35.5%と、前回(38.0%)を2.5ポイント下回った。

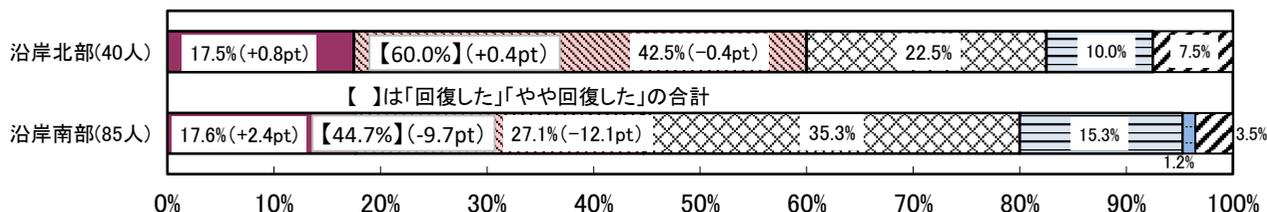
水産業等の生産基盤の整備や中心市街地での店舗・事業所の再建などが進んだとの声がある一方で、水産業の不漁に加え、復興需要の縮小や人口減少の影響を実感する声があった。また、新型コロナウイルス感染症の影響については、消費喚起策による効果もみられるものの、飲食業や観光業をはじめとしたさまざまな業種で打撃を受けているとの声がある。

① 地域経済の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、地域経済は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

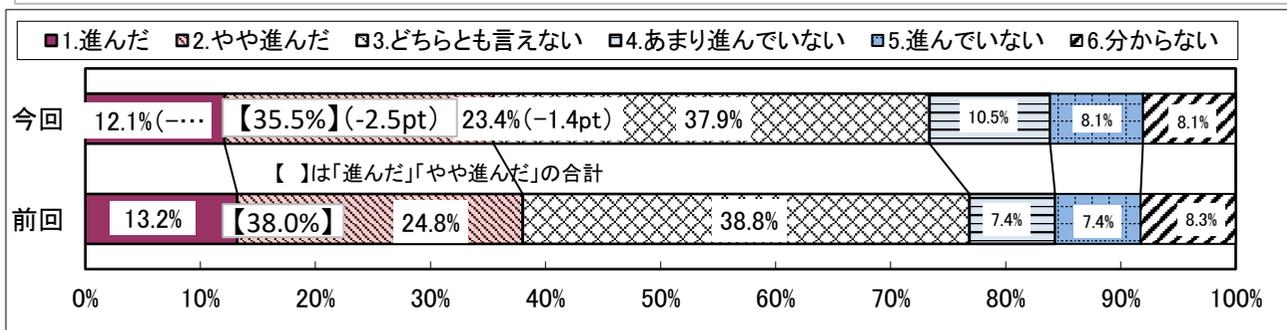


地域別

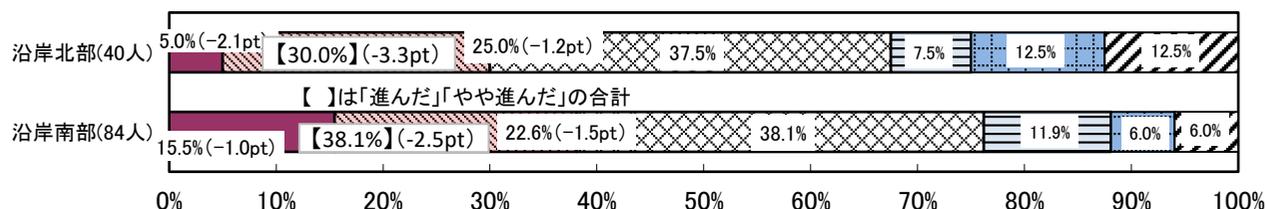


② 直近6ヶ月間(おおむね1月から7月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)地域経済の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.回復した」 又は 「1.進んだ」 の理由	<p>◆農業は水田等の基盤整備がほぼ完備し、圃場の規格整備、農業機械の導入の支援により、従来(震災前)より生産性が高まり、農作物の販売額も安定した。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆震災からの回復については一定レベルでなされたと思われるが、コロナ等の別課題の影響により、経済が低迷している感が否めない。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p>
「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んだ」 の理由	<p>◆中心市街地への店舗・事業所の再建は着実に進んでいる。観光施設もオープンしており、交流人口拡大に向けた準備は整いつつある。アフターコロナに向け、各事業者が前進していると感じる。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆農林漁業は、被災前に近い状況に戻っているように思うが、小売・サービス業の中には、厳しい経営を強いられている方も見受けられる。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p> <p>◆被災前に比べて、ある程度、回復したと思う。早くコロナが収まり、道路交通もよくなったので、水産物の流通拡大、町内の飲食業も活気づいてほしい。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆不漁(サケ、サンマ等)の影響が大きいと思う。水産加工業者では、仕入れ単価が高騰し、経営に打撃である。しかし一部巣ごもり商品をメインにしている業者は盛況である。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆プレミアム付商品券・食事券など発行され、多くの人達が利用しているため、スーパーなどは混雑が見られる。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆農業、水産業については、消費者の立場から見ると、店に並ぶ食材の変化から回復を年々感じ取ることができています。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p>
「3.どちらとも言えない」 の理由	<p>◆水産業に関しては設備などは震災前以上となっている半面、水揚げ量の減少などを勘案すれば、経済の回復度は回復したとは言えない。一方で、製造業や建設業など一部では盛況であるが、それ以外の業種との格差が大きくなっている。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆人口減少局面において、震災後10年を区切りとして廃業を模索している方々も相当数存在している。地域経済の回復は事業承継支援とセットで進めなければ「絵に描いた餅」となります。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆復興道路関連事業の進行によって地域経済は以前に比較すれば回復した感が強い。外出自粛に伴い地域内での購買力が増加すると思われたが、その影響はほとんどないに等しい。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p> <p>◆地域内の漁業従事が減少し、浜に活気がなく、漁業の町の将来が心配されます。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆震災学習・観光など、被災地で取り組んでいた活動が、新型コロナの影響で出来なくなり、地域経済にダメージである。(39歳以下,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p>
「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	<p>◆水産業においては、サンマやサケの漁獲量の激減、沿岸漁業のアワビやウニの不漁が続いており、漁業関係者並びに関連する企業に経済的な面で大きな影響を与えている。ただし、新しい事業として、サーモン・マス等の海面養殖を行っている沿岸市町村もあり、漁業に明るい兆しが見える。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆復旧工事の完了とともに、作業員の撤収により商店の売上が減少している。仮設店舗の経営者も高齢のために閉店する人も出てしまった。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p>
「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由	<p>◆建設・建築を中心とした震災特需により、経済的回復を果たしたがその後の展望に欠けている。水産業では、記録的な不漁のなか、コロナ禍により消費低迷により、業態の悪化に歯止めがかからない。(40歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p>

注1)「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率におおむね準じています。

注3)掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など
 教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など
 産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

3 調査結果の概要(3) 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

○安全なまちづくりの達成度については、「達成した」「やや達成した」の合計が76.8%と、前回(71.1%)を5.7ポイント上回った。また、「あまり達成していない」「達成していない」の合計は7.2%と前回(9.1%)を下回った。

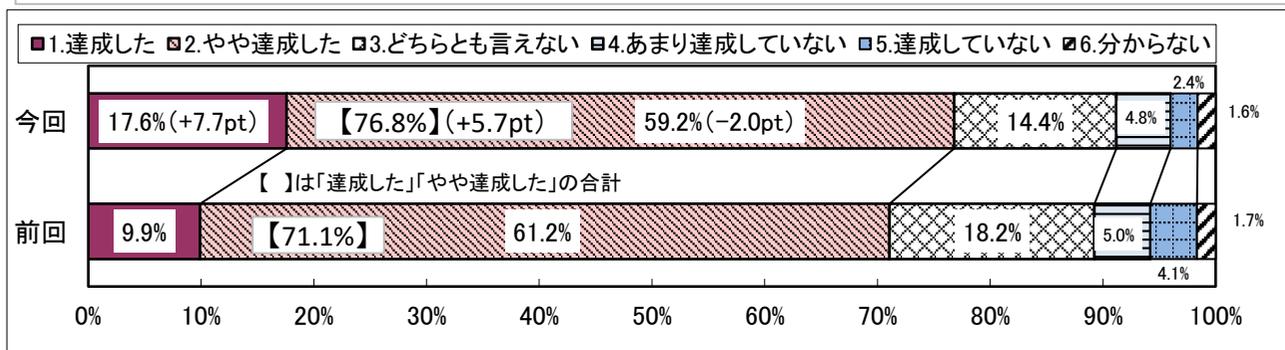
○地域別では、「達成した」「やや達成した」の合計は、沿岸北部で75.0%と前回(63.4%)を大きく上回り、沿岸南部では77.6%と前回(75.1%)を上回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は2.6%と、前回(11.7%)から縮小した。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が68.5%と、前回(79.2%)を10.7ポイント下回った。また、「あまり進んでいない」「進んでいない」の合計は8.9%と、前回(3.3%)を上回った。

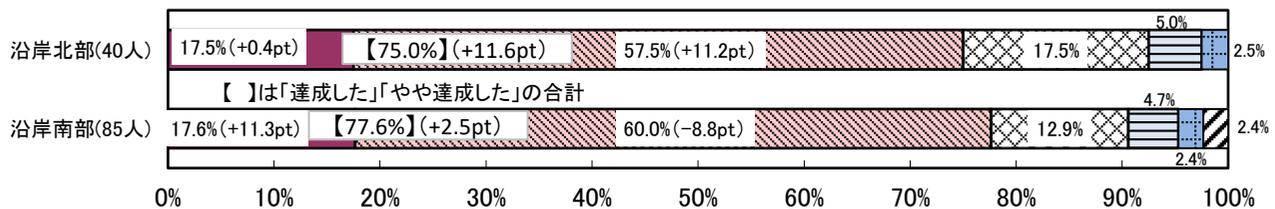
防潮堤や復興道路などハード面の整備が進んだことを評価する声がある一方で、一部の防潮堤工事等が完了していないことへの不安の声もあったほか、防災意識を高めるための取組や津波以外の災害への備えの必要性を指摘する声が多かった。

① 災害に強い安全なまちづくりの達成度(震災以降における全体の達成状況)

【設問】あなたの周囲をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じますか？

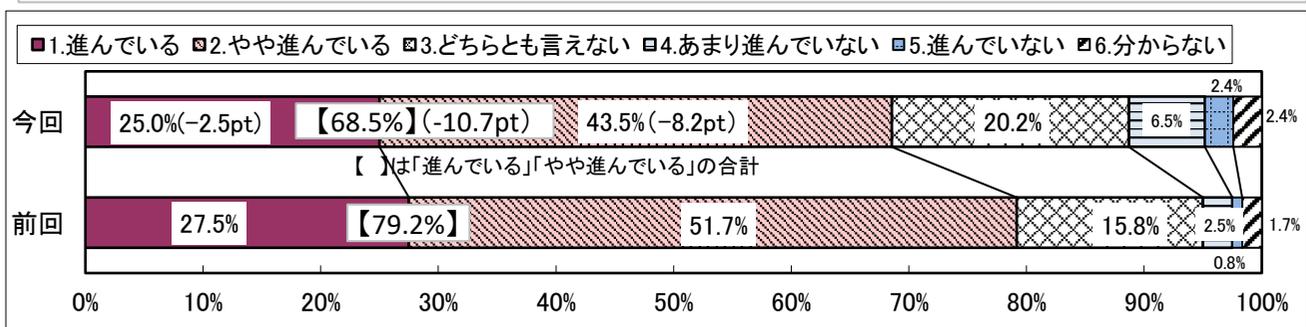


地域別

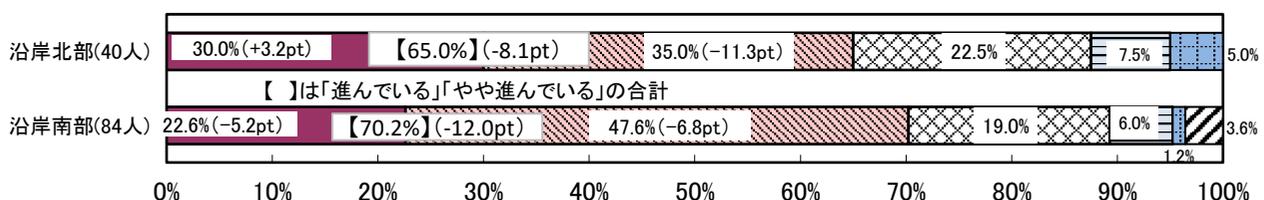


② 直近6ヶ月間(おおむね1月から7月まで)の進捗状況

【設問】あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)災害に強い安全なまちづくりの進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 達成度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.達成した」 又は 「1.進んでいる」 の理由</p>	<p>◆沿岸の堤防や避難所の整備が進んでおり、まちづくりは進んでいる。三陸道の整備により、広域での医療体制の拡充が図られている。(40歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p> <p>◆街の中でも避難道路など整備されたりして、人々の災害に対する向き合う気持ちも強くなっていると思う。特に行政のトップの方々はそのなまちづくりを真剣に取り組まれている姿勢が目に見える。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆時間の経過とともに市民に慣れが生じていることに不安を感じる。震災以降に生まれた子どもたちへの防災教育は学校での教えを中心に充実している様子。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p>
<p>「2.やや達成した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<p>◆まちづくりの進展、観光施設の完成と並行し避難経路図の掲示、避難訓練も実施されており着実に進んでいる。三陸道の延伸は避難方策の充実に加え、産業・観光面へのプラスが大きい。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆震災後10年が経過し、沿岸部の防潮堤工事は一部の地域を除き、ほとんどの部分が完成し、避難道路等も整備され、ハード面では整いつつある。それに伴い、住民の避難に対する意識が風化してきているように感じる。防潮堤は津波を完全に防ぐものではなく、津波の到達を遅らせ避難時間を稼ぐことを再認識する必要がある。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆小本港では2000トン岸壁が既に供用されるなどしているが、台風被害による河川工事はあと2〜3年かかる。町民全域に自主防災組織が結成され、各地区で防災訓練を実施する等防災意識が高まっている。(40歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p> <p>◆私は消防団員も務めており、先日河川水門の運用説明会に参加した。「操作盤の扉を開けただけで各関連機関に異常通報が入る」とのことで、しっかり遠隔管理されているんだと実感できた。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆ハード面では「安全」なまちづくりは達成されつつある。そこに暮らす私たちが「安心」するための取り組みを進めていかなくてはならないのではないかとこの地に住む大人として、防災意識を子供たちと考えたい。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆ハード面は、できていると思うので、忘れないためにも、行政面・教育面そして民間等の活動において防災意識を高めていく活動を維持していく必要がある。トモスや復興スタジアム等のイベントを支援したい。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<p>◆河口水門や陸こうの遠隔操作式門扉は出来上がり、残すは防潮堤の乗り越し道路と漁港の人口地盤になっている。一方、一昨年の台風19号による災害対策の抜本的な施策はなく、安全・安心からはほど遠い。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆施設等はできてきていて、道路もできたが、だんだん心の中の防災意識が薄れてきている気がする。定期的な防災意識を高める機会が必要だと思う。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆津波防災は十分であるが、堤防建設により台風災害等に対応できない。水がたまる・排水できない＝災害に弱い。現在、河川改修が進んでいるが、土砂の流出等により、漁業に影響が出ないか不安がある。(40歳代,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p>
<p>「4.あまり達成していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<p>◆防潮堤の工事が未だ完了しておらず、不安を感じる。今、同様の災害が発生したと想定するとどうしても身の危険を感じる。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆防潮堤が出来た事により視界が遮られ、避難がかえって遅れてしまうように思う。高台移転や市民の防災意識を変える事によって初めて災害に強い安全なまちづくりと言えるのではないかと。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆整備や工事がなされているかもしれないが、あまり実感が無い。もっと広報を効果的にされてはどうかと思う。災害にそなえるという点でも住民の意識は薄いと思う。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p>
<p>「5.達成していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由</p>	<p>◆地元水門が未完成、工期延長が続いている。住民は行政に不信感を抱いている雰囲気がある。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p>

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率におおむね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など
教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など

産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

いわて復興ウォッチャー・動向判断指数(DI)の推移

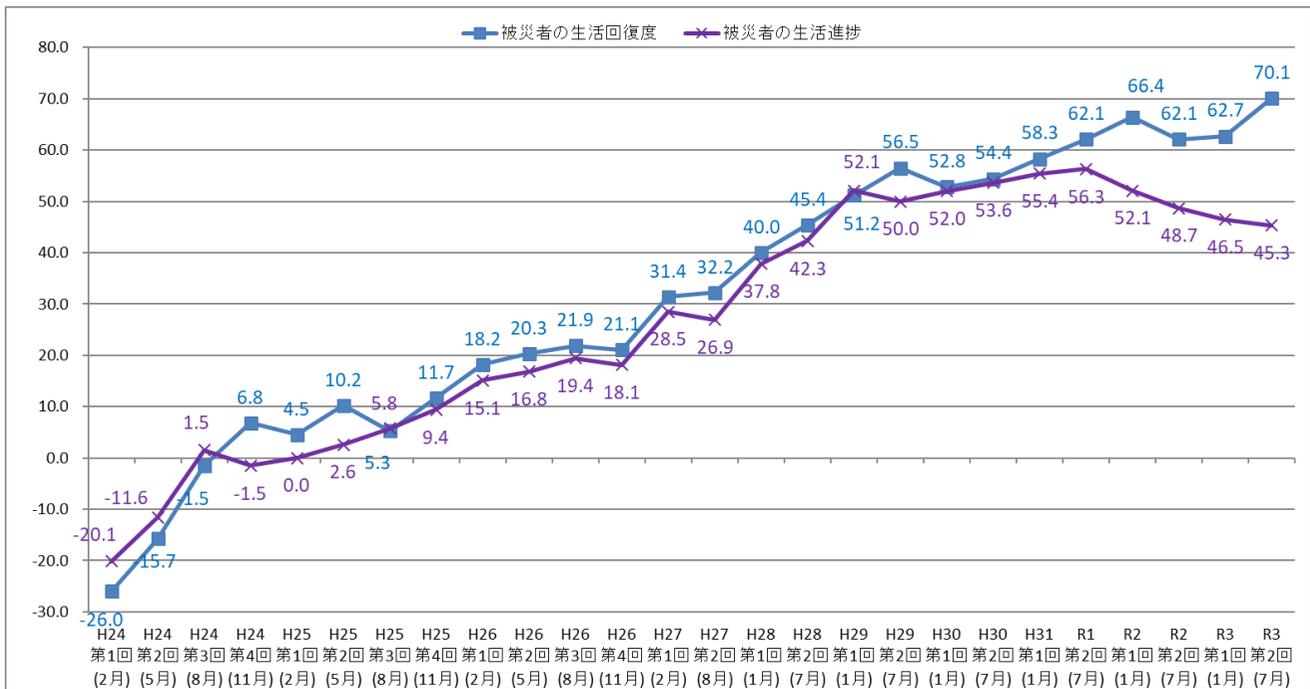
<動向判断指数(DI)>

掲載する折れ線グラフは、各回の動向判断指数(DI)について時系列にその推移を表わしたものである。動向判断指数(DI)は、「回復した」の回答数がA、「やや回復した」の回答数がB、以下「どちらともいえない」がC、「あまり回復していない」がD、「回復していない」がEのとき、次の式で算出する。

$$\text{動向判断指数(DI)} = \{ (A \times 2 + B) - (D + E \times 2) \} \div 2 \div (A + B + C + D + E) \times 100$$

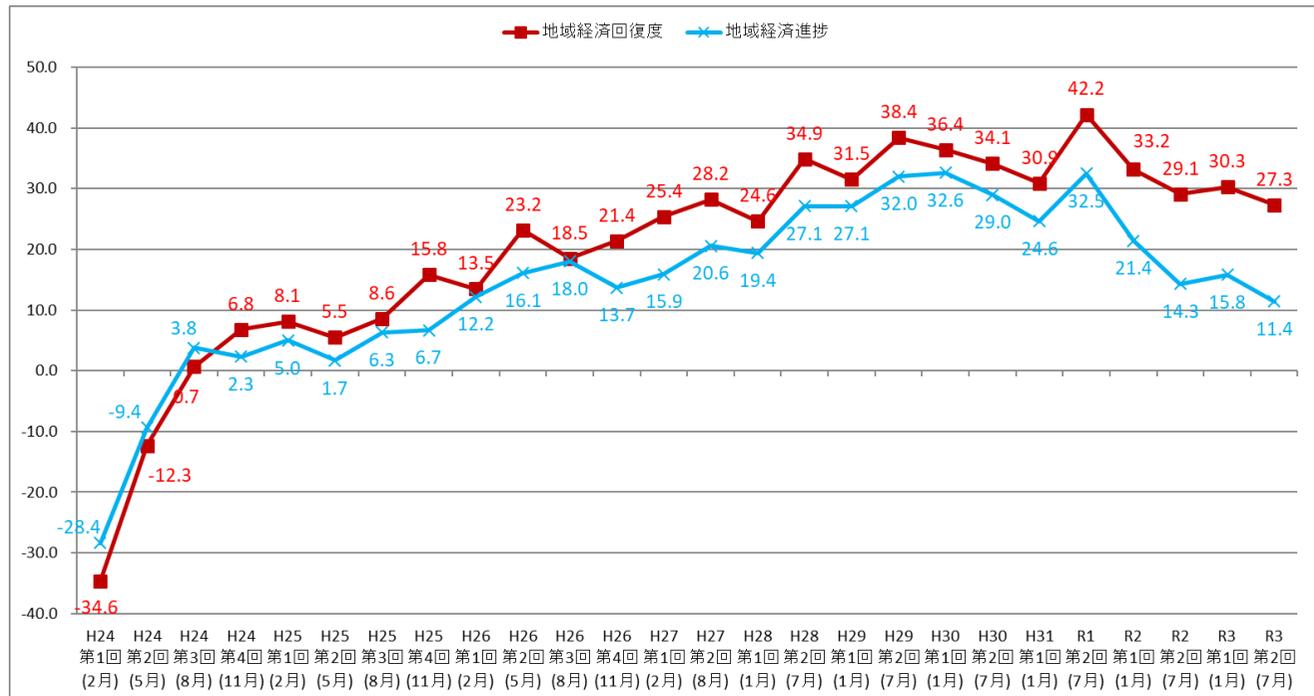
(注) 上記「回復した」は、設問によって「達成した」「進んでいる」等となる(他の選択肢についても同様)。

【被災者の生活】回復度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



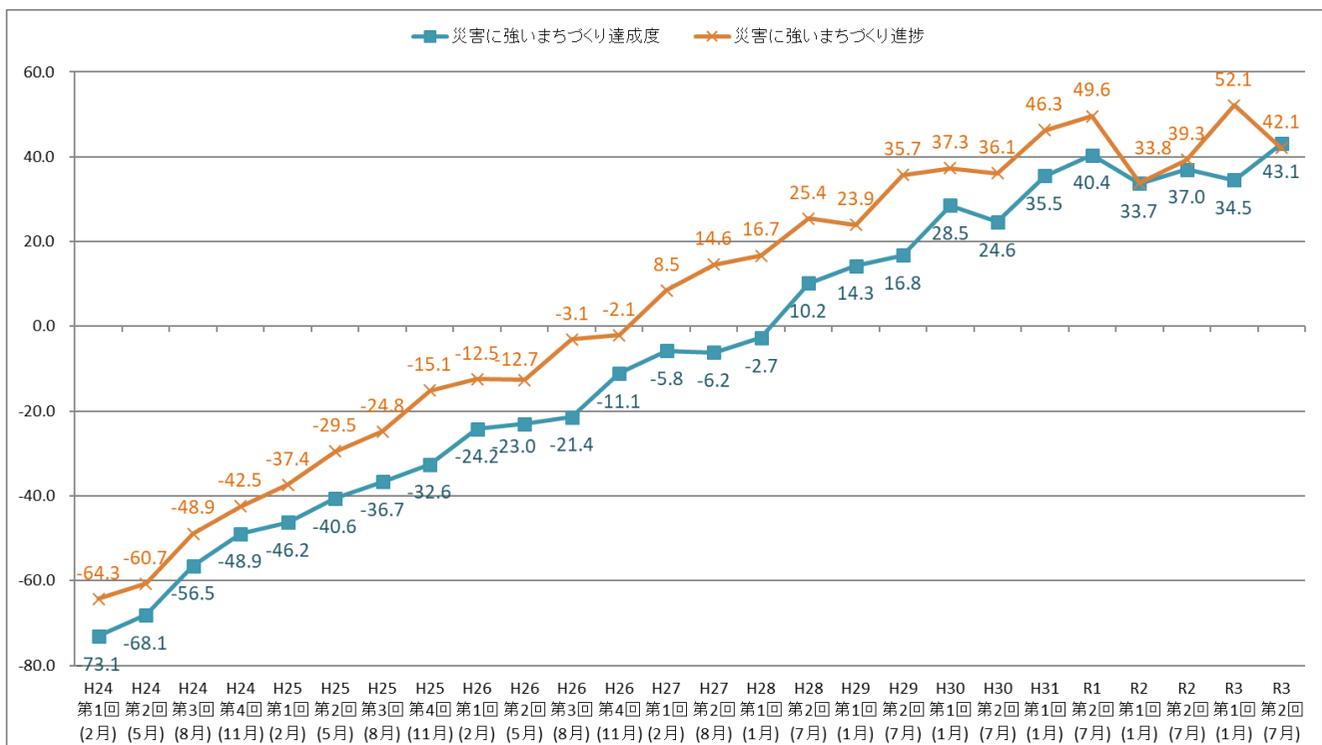
※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、おおむねR3年1月～R3年7月)を指す。

【地域経済】回復度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、おおむねR3年1月～R3年7月)を指す。

【災害に強い安全なまちづくり】達成度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、おおむねR3年1月～R3年7月)を指す。

令和3年【第2回】
「いわて復興ウォッチャー調査」
結果報告

発行

令和3年8月30日

岩手県

復興防災部 復興推進課

〒020-8570

岩手県盛岡市内丸10-1

電話 019-629-6935

ホームページ：いわて復興ウォッチャー調査について

<https://www.pref.iwate.jp/shinsaifukkou/fukkounougoki/chousa/watcher/1002363.html>